

<特集「受動表現」>

ポルトガル語の受動表現について

黒沢 直俊, 鳥越 慎太郎

ポルトガル語の受動表現は文法書によって分類や解釈, あるいは用語に差異があるが, 主に以下のものが挙げられる.

- A) コピュラ動詞 *ser* と他動詞の過去分詞を組み合わせて構成される受動態.
- B) コピュラ動詞 *estar* などと他動詞の過去分詞を組み合わせて構成される受動表現.
- C) 3 人称の再帰動詞を用いた受動表現.<sup>1</sup>
- D) 特定の主語が明示されない 3 人称複数 of 能動態他動詞表現.

A はヨーロッパ言語に多く見られる助動詞と過去分詞による受動態である. 動作主は前置詞 *por* (「～によって」), 場合によっては *de* (「～から」) や *entre* (「～の間で」) を伴って表示される.

B は A と同様の助動詞と過去分詞による構文で, 助動詞に *estar* (コピュラ), *andar* (「歩く, 進む」), *viver* (「生きる」) を用いることで状態や結果, *ficar* (「なる」) を用いることで状態変化, *ir* (「行く」) あるいは *vir* (「来る」) を用いることで運動が含意された受動表現となる (Mateus et al. 2003<sup>2</sup>, Cunha & Cintra 2007). ただし, この場合は動作主を示すことはできない.

C はロマンス諸語に広く見られる再帰受動表現である. 他の再帰態表現 (再帰表現, 相互表現) とは異なり 3 人称表現に限定され, また, 現代語では動作主 of 明示は許容されない.

D は C の能動表現であるとされる (Mateus et al. 2003). これも C 同様, 動作主が明らかでない場合 of 表現であり, 被動作主は直接目的語となっている.

また, 以下のような例も示されているが周縁的と判断し詳細は省略する.

E) 受動的語彙を用いた能動態表現 (*receber* 「受ける」, *sofrer* 「苦しむ」).

<sup>1</sup> Bechara (2007), Cunha & Cintra (2007) は受動「態」の 1 つとして扱っている.

<sup>2</sup> Mateus et al. (2003) では助動詞に *ser* を用いる表現を統語受動態 (*passiva sintáctica*), *estar* などを用いる表現を形容詞受動 (*passiva do adjetivo*) と呼んでいる.

(Bechara 2007)

F) 仮想的, 比喩的な表現. (Vilela 1999)

G) モノ主語のモーダルな表現 (o jogo é de vencer 「勝つべき試合」). (Vilela 1999)

H) 「～できる」という形容詞 (água potável 「飲料できる水」). (Vilela 1999, Mateus et al. 2003)

以下, 日本語の例文に対応するポルトガル語の受動表現を挙げ, 考察していく.  
なお, 各表現の文法的許容性の判断や一部表現の意味的な機微の解説は Eliseu Pichitelli, Carlos Jaca の両氏にご協力いただいた.

(7) ジョアンはペドロに叩かれた (直接受身)

(a) João foi espancado por Pedro.

ジョアン ser 完過+3+単 叩く過分 によって前 ペドロ<sup>3</sup>

(7)a.の表現は A に示された受動態によって示される.

(4) ジョアンはペドロに足を踏まれた (持ち主の受身, 体の部分)

(a) João foi pisado no pé por Pedro.

ジョアン ser 完過 3+単 踏む過分 場所前+定男 足 によって前 ペドロ

(4)a.の表現も A の受動態によって表現される. 被動作主が主語となり, 踏まれた部位は前置詞 em (例では定冠詞 o と結合して no となっている) によって明示される.

(ウ) ジョアンはペドロに財布を盗まれた (持ち主の受身, 持ち物)

(a) Pedro roubou a carteira a/de João.

ペドロ 盗む 完過 3+単 定女 財布 から前 ジョアン

(b) A carteira foi roubada a/de João por Pedro.

定女 財布 ser 完過+3+単 盗む過分 から前 ジョアン によって前 ペドロ

(c) João deixou a carteira roubada com Pedro.

ジョアン させておく 完過+3+単 定女 財布 盗まれた形 とともに前 ペドロ

<sup>3</sup> 現=現在, 完過=完了過去, 過分=過去分詞, 前=前置詞, 定=定冠詞, 不定=不定冠詞, 男=男性, 女=女性, 形=形容詞, 再代=再帰代名詞, 与代=与格代名詞, 所有=所有格代名詞, 1=1人称, 3=3人称, 単=単数, 複=複数, を意味する. また, 動詞の叙法については全て直説法であるためマークは省略した.

(d) João deixou a carteira ser roubada por Pedro.  
 ジョアン させておく<sub>完過+3+単 定女</sub> 財布 コピュラ<sub>不定形</sub> 盗む<sub>過分</sub> によって<sub>前</sub> ペドロ

(ウ)a.は能動態表現，(ウ)b.は受動態表現である。(ウ)a.では持ち物が直接目的語となり，(ウ)b.では主語となる。持ち主は(ウ)a.，(ウ)b.ともに前置詞 a や de による間接目的語として，盗んだ動作主は(ウ)b.では前置詞 por によって示されている。(ウ)c.と(ウ)d.は動詞 deixar「させておく，させたままにする」を用いて「持ち主が財布を動作主に盗ませた状態にした」という意味の能動態表現で，「状態・結果的な受動表現」(上記のEに当たる)である。動作主の前置詞が異なるが，(ウ)c.のように com「～とともに」を用いると焦点は財布に，(ウ)d.のように por「～によって」を用いると焦点は動作主に当てられるとされる。

(エ) 昨日の夜，私は赤ん坊に泣かれた。それでちつとも眠れなかった (自動詞からの間接受身)

(a) <sup>?</sup>Ontemà noite, o bebê me chorou, por isso não  
 昨日 時<sub>前</sub>+定女 夜 定男 赤ん坊 私<sub>与格</sub> 泣く<sub>完過+3+単</sub> 原因<sub>前</sub>それ 否定<sub>助動詞</sub>  
 consegui dormir bem.  
 達成する<sub>完過+1+単</sub> 眠る<sub>不定形</sub> よく

(エ)の表現は能動であり，与格代名詞 me によって被動作主の被動作性が暗示されている。ただし Pichitelli, Jaca 両氏の判断によるとこの文は文法的には許容されるが不自然な表現であり，与格代名詞は省略されるべきであるとされる。

(オ) 新しいビルが (ペドロによって) 建てられた。(モノ主語受身，一次的)

(a) Um /o prédio novo foi construído (por Pedro).  
 不定/定<sub>男性</sub> 建物 新しい ser<sub>完過+3+単</sub> 建設する (によって<sub>前</sub> ペドロ)  
 (b) Construiu-se um prédio novo.  
 建設する<sub>完過+3+単+再代</sub> 不定<sub>男</sub> 建物 新しい

(オ)a.は受動態，(オ)b.は再帰受動である。(オ)a.では動作主の提示は選択的，(オ)b.では動作主の提示は許容されない。各表現とも動作の一回性は完了過去によって示されている。また，特に(オ)a.で動作主が明示される場合は被動作主(モノ)に定性が生じることも考えられる。

(カ) カナダではフランス語が話されている。(モノ主語受身, 恒常的, 動作主が問題にならない場合)

(a) Fala-se francês no Canadá.

話す<sub>現+3+単</sub>+再代 フランス語(主語) 場所<sub>前</sub>+定<sub>男</sub> カナダ

(b) Falam francês no Canadá.

話す<sub>現+3+複</sub> フランス語(直接目的語) 場所<sub>前</sub>+定<sub>男</sub> カナダ

動作主を問題としない一般的, 恒常的事柄に関する表現には再帰受動(カ)a., あるいは動作主不特定の3人称複数(カ)b.によって表現される。

(キ) 財布が(誰かに)盗まれた(モノ主語受身, モノ主語の背後に被影響者が想定される)

(a) Foi roubada a (minha) carteira.

ser<sub>完通+3+単</sub> 盗む<sub>過分</sub> 定<sub>女</sub>(所有<sub>女</sub>) 財布(主語)

(b) Roubaram a (minha) carteira.

盗む<sub>完+過3+複</sub> 定<sub>女</sub>(所有<sub>女</sub>) 財布

(キ)a.は(ウ)b.と同様の受動態表現, (キ)b.は動作主不特定の3人称複数表現であり, ここではともに動作主, 被動作主が明示されていない。持ち物(財布)に所有格代名詞が付属することで被動作主が示されるが, 所有格代名詞がなくても定冠詞を用いることで文脈から誰かの持ち物であるという情報が聞き手と共有される。

(ク) 壁に絵が掛けられている(モノ主語受身, 結果状態の叙述)

(a) Um quadro está pendurado na parede

不定<sub>男</sub> 絵 estar<sub>現+3+単</sub> 掛ける<sub>過分</sub> 場所<sub>前</sub>+定<sub>女</sub> 壁

(b) Na parede há um quadro pendurado.

場所<sub>前</sub>+定<sub>女</sub> 壁 ある<sub>現+3+単</sub> 不定<sub>男</sub> 絵 掛けられた<sub>形容詞</sub>

(ク)a.では助動詞が estar となることで一時的な状態性が含意されている。(ク)b.は存在を示す動詞 haver 及び「掛けられた」という意味の過去分詞を形容詞的に用いた能動態表現である。なお, (ク)a.は情景描写的な表現で, (ク)b.は絵に関する説明情動的な表現であるとされる。

(ケ) マリアはジョゼに／から愛されている。(感情述語の受身, 特に動作主のマー  
カーに注目)

(a) Maria é amada por José.

マリア コピュラ<sub>現+3+単</sub> 愛する<sub>過分</sub> によって<sub>前</sub> ジョゼ

(b) Maria é amada entre eles/de todos.

マリア ser<sub>現+3+単</sub> 愛する<sub>過分</sub> の間で<sub>前</sub> 彼ら/から<sub>前</sub> みんな

(ケ)a.は(ア)同様の典型的な受動態表現で表わされる。動作主のマー  
カーも前置詞 por である。(ケ)b.のように動作主が複数の集団になると前置詞  
マーカーに entre や de を用いることもできる(Vileta 1999).

(コ) ジョゼはペドロに／から「...」と言われた。(伝達動詞の受身, 特  
に動作主のマーカーに注目)

(a) Foi dito a José por Pedro que .....

ser<sub>完過+3+単</sub> 言う<sub>過分</sub> へ<sub>前</sub> ジョゼ によって<sub>前</sub> ペドロ 接続詞...(主語)

(b) Pedro disse a José que .....

ペドロ 言う<sub>完過+3+単</sub> へ<sub>前</sub> ジョゼ 接続詞 ...

(コ)b.は能動態, (コ)a.は受動態である。(コ)a.では直接目的語である伝  
達内容が受動態の主語となり, 動作主は前置詞 por, 被動作主は前置詞 a  
によって間接目的語で示される。

#### 参考文献

- Bechara, E. (2007). *Moderna Gramática Portuguesa; 38ª edição revista e ampliada*.  
Rio de Janeiro: Editora Lucerna.
- Cunha, C. e Cintra, L. (2007). *Nova Gramática do Português Contemporâneo; 4ª  
edição revista e ampliada*. Rio de Janeiro: Lexikon.
- Mateus, M. H. M., Brito A. M., Duarte, I. e Faria I. H. (2003). *Gramática da Língua  
Portuguesa (5ª edição)*. Lisboa: Editorial Caminho.
- Valela, M. (1999). *Gramática da Língua Portuguesa*. Coimbra: Livraria Almedina.